

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあぜみち
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県能代市二ツ井町飛根字羽立95番地1
記入者名 (管理者)	熊谷 裕子 (施設長)
記入日	平成 20年 11月 10日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	理念に向かって進んでいる状況であり、ケアの目標として常に取り組む姿勢を持っている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	今後理念の変更も視野に入れるとともに、いつでも前向きに取り組むことができるよう柔軟に考えている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	誰でも理解できるような簡単な理念のもとで、深い関わりを目指しながら取り組んでいる姿勢を伝えている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	既に顔見知りの方だけではなく、どのような方であっても気軽に声をかけていただけるような雰囲気にも努めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	現状の中で可能となる部分には、働きかけていくよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	二ツ井町ケア会議への参加や、地域の方々の介護相談を行っている。	○	能代山本GH協会の会員としての支援も積極的に取り組んでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目と目的を理解するとともに、評価の結果を検討しながら、利用者にとってのより良い生活のあり方に取り組んでいる。	○	常に利用者が安心できる生活のあり方に向けて話し合っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に情報公開に努め、多様な立場からの意見を収集している。	○	積極的な意見交換ができるよう努めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は密に取れており、いつでも相談しやすい環境である。	○	いつでも情報交換を行うとともに、利用者を第一に考えたサービスを実践できるよう連携に取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修への参加を行っている。	○	入所前に家族との話し合いのもとで、必要性があるのかどうかを判断している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や内部研修により、高齢者虐待防止関連法についての話し合いを行っている。	○	虐待等は絶対あってはならない、という考えの下で取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族との十分な話し合いの下で、理解・納得をいただいている。	○ 当ホームに関する情報に限らず、介護保険法や事業所間の連携を説明することで、不安や疑問の解消に努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の会話の中で表現していることに気付くとともに、見直すべきことは早急に対応している。	○ 利用者から家族へ伝わった不満には、家族から声を聞きだし対応している。また、日常生活の中からも意見を見出すよう努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料の請求時に報告を行っている。また、緊急的な場合には、その時点で電話で連絡をとっている。	○ 細かい報告を嫌がる家族もあり、過剰な報告は避けている。しかし、全ての家族にとって満足のいく情報提供なのかは、今後の状況等で柔軟に判断していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム側に対しては、いつでも気軽に話してくれるよう伝えている。また、外部の機関については、入所時に説明をしている。	○ 家族からの意見は丁重に受け止めるとともに、全体的話し合いの中で、より良い方向にいけるよう努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の勤務の中でも気軽に話し合っている。	○ いつでも自由に意見を話し合えるような雰囲気作りに努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	いつでも調整ができるような体制作りになっている。	○ いつでも必要な話し合いの場を持ちながら、柔軟な対応を心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	いつでも利用者の状況を把握しながら、調整に努めている	○	離職のない職場作りに努めている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に研修の機会を設けるとともに、職員の現状を把握しながら、個々の指導に努めている。	○	職員の個性が介護の質にプラスになるような指導に取り組んでいきたい。また、人としての成長を望んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県GH協議会及び能代山本GH協会の会員として、多様な連携に努めている。	○	同業者のみではなく、多様な職種の方々とのネットワーク作りに取り組んでいき、サービスの質の向上に繋げていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に気軽に話し合いができるような雰囲気作りに努めるとともに、職員の変化についても敏感に気付くよう努めている。	○	今の関係が継続できるよう努力している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に職員間の繋がりや行動に目を配り、個々との話し合いを行っている。	○	職員が向上心というものを持ち続けることができるよう、様々な情報の提供を継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に相手の立場に立った考え方ができるよう努めている。	○ 担当のケアマネージャーとの連携をとるとともに、相手を尊重する考えや立場に配慮している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に不安を感じているものであるとの考えを持ち、相手の気持ちを理解し受け止めている。	○ 常に相手の立場に立った考えができるよう努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の介護サービス事業所との連携もとれており、必要性の高い支援の見極めや他の支援の紹介も可能となっている。	○ 地域の関係機関との連携を今以上にとるとともに、必要と思われるサービスの提供を適切に助言していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人にも他者に馴染もうとする能力がある。周りが働きかけなくても、自分のペースで居場所を作り上げている。	○ 本人の力で馴染もうとする場合の馴染む期間は早い。そして、自ら居場所を見つけた後は、「ここに居ることができる」という自信につながっていると考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の進行とともに、支えあう関係から与えられることを望んでいる場面に出会うこともある。利用者から様々な学びの機会を与えていただいたお礼に、優しさを与えることも支えあいになると考えている。	○ 支えあう関係は、認知症の進行とともに形を変えるものだと考えている。当ホームの現状では、重度の認知症が多いため、穏やかな支えあいとなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変化に関しての協力は要請している。常に、家族の協力なしでは介護していけないと伝えている。	○	利用者と家族の接点がないよう働きかけている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	足が遠のく家族はあるが、穏やかになった本人を見てほしいとの要望を出しながら、家族の繋がりを自覚していただけるよう努めている。	○	長くなった利用者の家族については、穏やかな本人を見て、家族としての愛情を見つめ直す良い機会となっている。そのような場面を増やしていきたいと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やお店には、希望があれば職員同伴で行っている。	○	利用者本人からのこだわりには答えていきたい。しかし、当ホームに入所されてからの馴染みの関係にも力をいれている。月日が経つとともに馴染んでいる様子が伺える。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の思いやりある対応によって、他者に対する余裕がでてくるようである。できる限り工夫された声かけをし、本人を批判することなく、また一人にならないよう配慮している。	○	職員の心がけ次第であることを理解し、誰もが一人ぼっちにならないように配慮している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要としている家族に対しては、適切な対応を心掛けている。	○	どのような場合であっても、必要としている方に対しては、真摯な気持ちで受け入れていく考えである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような場面であっても、本人の言葉や行動、表情から求めているものを感じ取る努力をしている。	○ 常に本人の気持ちに沿えるよう努めている。また、ホーム側の限界を説明することによって、一緒に最善策を探る努力をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部の書式を、入所前に家族から記録していただいている。それ以外は、入所されてから本人からの聞き取りに努めている。	○ 日常生活の中で、本人の言葉や行動から把握している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間の情報交換や本人の状態観察によって、総合的に判断している。	○ いつでも柔軟な対応ができるよう、細かな観察をするとともに、気付いたことの情報交換を常に行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の行動や表現を把握するとともに、職員からの情報を基に話し合いの場を設けている。	○ チーム体制というものの理解に努め、様々な人との関係の中で生活されているということを基本に、介護計画の作成に努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議の中で、本人に関する情報交換と状況把握に努めている。そのときに必要な見直しや変更を行っている。	○ 職員間の情報交換を大切にし、本人の現状把握に努めるとともに、介護計画の変更を臨機応変に行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個別の記録に毎日記録している。その内容は、次回の会議の中での検討にも利用している。	○	毎日の記録の確認をケアマネが行い、変化については会議で検討するとともに、必要があれば実践や計画の見直しを行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いつでも柔軟に対応するという考えの下で支援をしている。	○	要望に応じて柔軟に対応できるよう、職員の指導に努めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	本人の必要に応じて、他機関との協力に応じることは可能である。	○	他の地域資源との協力のできるものを本人が要望するのであれば、話し合いの中で可能となるよう努める。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性があれば可能であるが、現状では利用されている方はいない。	○	必要性の高い人が発生した場合は、柔軟に考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在利用されている方はいないが、必要に応じて連携は取れるようになっている。	○	必要性の高い人が発生した場合は、柔軟に考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> <p>入所前からのかかりつけ医を継続している。</p>	○	継続していく。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>山本組合総合病院の精神科に相談している。</p>	○	継続していく。
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>かかりつけ医の看護師との連携はとれている。</p>	○	継続していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>利用者の入院時には、いつでも情報が得られるように家族や病院との連絡をとっている。</p>	○	継続していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>本人の変化とともに必ず家族と意思との相談の場を設けている。</p>	○	常にかかりつけ医への相談を怠らず、変化には早急に対応している。また、常に柔軟な対処ができるよう職員への指導にも努めている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>利用者の重度化が目立ってきており、常に話し合いの場を設けている。ほ一むの限界を理解した上での取り組みに努めている。</p>	○	終末期については、「最後は家族が、家族の責任として本人を看取るものである」との考えから、家族が傍に寄り添うためにはどのようにしたら最善策なのかを話し合い検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いの場と情報交換を行っている。	○	住み替えは頻繁にあるわけではないが、このようなことが発生した場合は、電話ではなく、顔をあわせての情報提供に努めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては、常時職員の耳に入るようにしている。また、利用者に対しての心無い言動や対応があった場合については、早急に対処している。	○	個々の尊重に心がけ、自尊心を傷つけることのないよう配慮している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	相手の有する能力に応じた説明を心がけながら、本人自ら決定できるような工夫と、待つ姿勢に取り組んでいる。	○	相手の有する能力とは？の理解に努めながら、過度な関わりの場を持たないよう配慮している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言葉としての希望表現は見られないが、態度や行動から判断できるよう努めている。相手の希望を察知したときは、その人のペースに合わせて支援している。	○	認知症の進行とともに、言葉だけでは理解できなくなっている。非言語コミュニケーションに努め、本人の想いを大切にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	渡辺理容室と山谷美容室を利用している。その日の洋服は、本人が選んだと思えるような環境にしている。	○	認知症の進行及び機能的な障害が見られても、おしゃれ心を感じられるような対応を心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目に触れる場所に台所が設定されており、見て聞いて触れて嗅いで、という支援が可能となっている。また、食器の後片付けは個々に行っている。	○	無理強いするのではなく、その人の有する能力とタイミングを考慮して、食事を楽しんでいただきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午前と午後の団欒があり、お茶とおやつを提供している。希望があれば、一緒に買ってくる場合もある。差し入れの多い時は、いつでも手に取れるよう、お茶とお菓子を居間のテーブルの上に置き、自由に行っている。	○	お酒については、5名の男性利用者がおり、断酒の方もいる関係で「飲まない」という方針である。タバコについては、入所時の聞き取りで、全ての利用者から吸わないとの意思表示があった。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	時間ごとの誘導は行わず、個々の排泄キャッチを行い、その都度支援している。	○	個々の排泄パターンと、便尿意を感じているときの行動を把握し、自然な形で支援となるよう配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定は月・木曜日としているが、全ての利用者が入浴するとは限らないので、入浴の希望時やタイミングを見ての入浴を施行している。	○	全ての人が風呂好きとは限らないので、無理強いをすることなく、その人の状況に応じて入浴を勧めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝たいときに寝て、起きたいときに起きている。	○	自分のペースで寝起きすることが、安眠や休息につながると考えているので、本人のペースに任せている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	あまり積極的な行動にはなっていない。	○	本人の理解できない部分での働きかけは、異常行動につながると考えているので、自ら希望しない限りは、ゆったりと生活していただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「自分のお金を使う」ということに積極的ではない。そのため、所持金については本人から「いらぬ」という返事がくる。	○	お金についての感覚は、人によって大きな違いがあると考えている。ホームの職員と外出をして、自分の物を自分のお金で買うということに、違和感を感じている人がほとんどである。「人のお金ならば・・・」という気持ちを表現してくる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や玄関先での日向ぼっこを支援している。自らの希望も無く、誘っても「嫌だ」と言われる。	○	無理な働きかけは控えるが、天気の良い日にはトボトボと歩いたり、近所の庭の観察に向かったりする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	試みてはいるものの、本人からの聞き取りには限界がある。家族についても消極的であり、特別な支援は行っていない。	○	利用者及び家族に負担にならない程度に情報収集していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎはあるが、難聴のために話が合わなかったり、受話器を置いてすぐに忘れてしまう場合が多い。	○	本人からの要求には応じる準備はしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の面会については、いつでもできるよう配慮している。ただし、本人が誰なのかを理解できない場合もあり、その都度対応している。	○	訪問者に対しての職員の対応にも注意を払いたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針である。何が身体拘束となるのかを常に職員間で話し合っている。	○	身体拘束を必要としないケアのあり方を追及していきたい。話し合いや検討の場を柔軟に設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中の施錠は行っていない。防犯のため、夜の9時から朝の6時まで施錠している。また、居室の施錠も行っていない。	○	職員の気配りや目配りで、施錠しなくても良い環境になっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見渡せる環境となっているので、本人には自然な動きと映るような見守りの中で、安全に努めている。	○	ひとり一人の安全に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	当たり前の家庭環境作りに努めている。その中で、利用者自身が理解し、自ずと危険から離れることができるよう支援している。	○	認知症の進行とともに、物品の保管・管理には工夫を凝らさなければならないと考えている。常にリスクを伴っているということを頭に入れながら、危険回避の方法を考えている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に危険と隣り合わせであるということを職員全員が理解し、利用者ひとり一人の状態に合わせ、危険予測の検討会を行っている。	○	個々の利用者、または利用者全体にとっての危険予測をし、その都度の話し合いで取組んでいきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変時の救急車要請については、躊躇することなく早急に対応している。また、異変に気付いた時には、他の職員の増加要請をするとともに、山本組合総合病院の救急外来を受診している。	○	年に1回の救命講習を受け、繰り返し勉強会を行っている。また、事故発生時の対応の取り組みについては、日常業務の中で話し合いの場を設けている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣近所に災害時の協力を得られるよう声をかけ、了解を得ている。また、地域消防団との連携もとっている。	○	お互いに協力できるよう、地域の付き合いを大事にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由とリスクは背中合わせであると言う事を、入所時の家族への説明の中で行っている。また、面会時等にいつでも本人の状況とリスクを説明し、家族とともに本人にとっての最善策を考えている。	○	認知症の進行に伴うリスクについての説明の機会が増えてきている。かかりつけ医および専門医からの説明を要請し、家族にも同席していただいている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと状態把握に努めている。体調変化の際には、すぐにかかりつけ医に相談し、助言を得るような体制にしている。	○	今以上の医療との連携に努め、利用者の異常時の対応に備えていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬についての説明を記録し、常に目をおすことができるようにしている。また、本人の変化については、かかりつけ医への報告とともに、適切な処方を受けている。	○	個々の状態把握に努め、異常の早期発見をするとともに、かかりつけ医への報告を適切にできるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適切な水分量と繊維のあるものの摂取に工夫を凝らしている。また、かかりつけ医へ相談し、下剤の処方をしていただいている。服用の方法は、個々の便秘の状態に合わせている。	○	個々の排便間隔を把握するとともに、頑固な便秘にならないような工夫に努める。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、就寝時、毎食後の歯磨きを励行している。個々の状態に応じた方法で支援している。	○	口腔内の清潔については、誤嚥対策の一つとして、常に気を配り励行していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に食後の残り具合を観察し、ひとり一人の体調やバランスを考慮した工夫に努めている。	○	あまりカロリーにこだわらず、好きなものや昔ながらの食べ物を摂取することで、栄養が保持されている。カロリー制限のある利用者がおればそのように工夫するが、そうでなければ楽しくおいしく食べられるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	除菌・消臭・抗菌剤として、ニコエースを使用している。また、冊子を準備し、常に目をとおしている。	○	突然に感染症が発生しても、慌てることなく、落ち着いて対処できるよう日頃から心掛けていくよう努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所全体にニコエースを毎日噴射している。また、食材を残さないように使い切りに努めている。	○	常に食中毒を頭に入れ、管理していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家の玄関様式となっているので、分かりやすく入りやすくなっている。	○	華やかな玄関周りもいいのだろうが、他の民家とのバランスも考え、「普通の家」と感じられるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員から粗暴な音（足音、茶碗の音、話し声、戸の開け閉め等）が出ないように配慮している。台所の音は、いい感じで耳に入るよう意識的に発生させている。不快な臭いについては、ニコエースの噴射で解消している。	○	極端に「家」とは違うと感じられるようにしたくないので、個々の利用者がどのような環境を心地良いと思うかを考えて、静かな空間を設定していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で座る椅子の設置、玄関前のフロアにソファの設置、洗面所に椅子の設置、風呂場前に畳の設置、居間にソファと畳の設置をし、思い思いの場所に座っていただいている。	○	利用者の変化が見られたら、検討するとともに、環境の変化も可能となっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅からの持込は、家族の負担増と 感じる方もおられるので、無理強 いはしていない。そのため、入所 してから使いなれていただいたり、 見慣れたりすることで、本人なり に納得していただいているよう である。	○	利用者からの要望として、何か があった場合は、早急に対応でき る準備はしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがない よう換気に努め、温度調節は、外 気温と大きな差がないよう配慮 し、利用者の状況に応じてこま めに行っている	臭いについては、ニコエースの 使用と窓の開閉にて対処してい る。また、温度調節については、 個々の状態を把握しながら、ス トーブや扇風機の使用とともに、 衣服の着脱にて調節を図ってい る。	○	常に換気や空気よどみには配慮 しながら、いつでも爽やかさを 感じられるよう工夫に努めてい る。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能 を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工 夫している	特別な設備をしないことで、利 用者の身体機能の維持に努めて いる。	○	当たり前の生活の中に、また本 人が記憶している生活の中に、 安全かつ自立した暮らしがある と考えている。そのため、普通 の環境作りに努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、 混乱や失敗を防ぎ、自立して暮 らせるように工夫している	個々の能力に応じた対応ができ るよう、常に話し合いを持ち、 その人を理解できるよう努めて いる。	○	常に勉強と実践を繰り返すこと によって、認知症ケアの本質に 近づいていくのではと考えてい る。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用 者が楽しんだり、活動できるよ うに活かしている	利用者と楽しめるよう、いつ でも活動できるよう心掛けてい る。	○	何も無いところから、利用者 と話し合いを持ち、一緒に考え、 一緒に活動できるように支援し ていきたい。最初からお膳立 てをすることなく、共に暮ら していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症である高齢者の方々が、安住の地として当ホームに入所されたのであれば、今まで一生懸命会社のため、家族のためと働き詰めで生活されてきたのだから、残りの人生はゆっくりと穏やかな時間の流れの中で、自分に無理することなく暮らしていただきたいと考えています。物忘れの病気なのであれば、忘れたものを思い出して自分を酷使するよりも、解らなくなった今の姿をそのまま受け入れ、「大丈夫、あなたはここに居てもいいのよ。私たちがいるわよ。」と、安心できる環境を作り上げることが、当ホームの理想でもあります。“解ること”“できること”がなくなっても、今生きていることが、誰か(私たち)のためになっているということを毎日耳元でささやきたいと思っています。そのような人間関係のあり方を目指しています。